



“イヤイヤ”や“自己主張”に寄り添う

1歳頃からの“イヤイヤ期”、そして“自己主張期”。「子どもの成長は嬉しいし、この時期が大切だということは分かっているけどもう大変! 子育ての先輩は『ずっと続くわけじゃないよ』とアドバイスをくれるし、いつかは治まると思うけど大変なのは“今”。何を考えてるか分からないことなんてしょっちゅう。親子だけで自分とは違う人格だと日々実感してます。」このような吹きをよく聞きます。

子どもは、1歳過ぎ頃から要求が通らない時に“だだをこねる”ような形で自分を表現する「自我」が芽生え始めます。「ジブンデ」と主張もし始めます。だんだんと自分と他者を明確に区別し始め重みづけもしていきます。自立へ向かう第一歩です。

自己主張=我がままではありません。主張したり自分で選択できたりすることは「自我の育ち」「子どもの個性化」でとても大事なことです。待つてあげたり見守ってあげたり、魅力的な選択肢を与えたりしたいものです。してはいけない危険なことや他の人への危害は、その行為に対してはっきりと「ダメ!」を伝えましょう。

絵本『やだ!』は、母親と信頼関係があるからこそ何度でも「やだ!」と言える子ザル

ジョジョのお話。読んでもらっている子どもは自分の「イヤ!」を代弁してくれているような気持ちになって満足することも。

『おでかけのまえに』では、親が子どもの失敗に寄り添い、気持ちを受け止め遊び心に付き合っています。そのような親の様子に大人が癒やされます。

生まれた時は泣くことでしか欲求を伝えられなかった子が、2年経たないうちにははっきりと自己主張できるようになるなんて感慨深いですね。親もワクワク子どもの成長を楽しみながら寄り添っていききたいものです。

今回ご紹介する絵本



やだ!
作・絵
ジェズ・オールバラ
徳間書店



おでかけのまえに
作 筒井 頼子
絵 林 明子
福音館書店

子育てひろば「めぐみ」代表 弘田 恵子

大阪府立母子保健総合医療センターNICUや母乳育児相談室で勤務。その後20年間高知市内のめぐみ保育園で園長を務める。助産師、看護師、保育士、幼稚園教諭(二種)。絵本専門士(国立青少年教育振興機構認定)。上級睡眠健康指導士。アンガーマネジメントファシリテーター

